人と暮らし

戦災と相ついで襲来した台風によって、市民の生活は大きな打撃をうけ、物資不足などの不安定な状態が続きました。しかし、昭和25〜27年ごろには漁法の変化により漁獲量が２倍となり、市民の消費生活に直結した小売業が盛んとなるなど、市場・商店街は市民の台所として栄え、市民生活が安定へ向かいました。

昭和34年には、スーパーマッケットが出現し、市民の生活が、多様化に向かうこととなります。

芦屋会館　茶屋之町にあった映画館。戦後の昭和25年、市内に娯楽施設がなく、愛市会と近隣商店街の協力で４月15日実現した。26年、「細雪」上映のときは、１日に3,000人もの入場者があり、長い行列をつくった。

昭和27年株式会社となったが、社会情勢の変化につれ34年ごろから経営難となり、入場者も最低となり、45年11月30日、かつて「アシカン」と親しまれた芦屋唯一の映画館は人びとに惜しまれながら閉館した。

昭和34年ごろの芦屋浜いわし漁風景

みやじゃこ

芦屋でできた「いりじゃこ」を、とくに「みやじゃこ」といって味がよいので多くの人びとに喜ばれました。

芦屋漁業組合から漁獲イワシの供給を受け加工された製品は、神戸・大阪・姫路などに出荷されました。昭和37・38年ごろから化学調味料の普及や労働力の不足などによって、イリコ加工の製造は減少し、やがて芦屋浜埋め立てにより、その風景も見られなくなりました。

名産みやじゃこの製造　昭和30年ごろ、ゆでて天日乾しをしているところ。

昭和25年ごろのいわし漁風景

芦屋海水浴場

昭和23年芦屋浜で市営海水浴場が開設されました。芦屋の海岸は潮の干満の差があまりなく、白砂青松で遠浅、海水が清澄と海水浴場に適した条件を備えていました。シーズン中は海の家が建ち並び、映画や演芸、女性モデルの撮影会など、アトラクションでにぎわい、最盛時ひと夏で34万人の人出があったといわれています。

昭和24年には芦屋水練学校が開校、日本水泳界で活躍された元オリンピック選手の故高石勝男校長の指導で多くの子どもたちが水泳を学びました。30年代後半から海水汚染がすすみ、39年には海水浴場は閉鎖、水練学校も中学校や市民プールで開校されることになりました。

芦屋海水浴場　昭和30年ごろ

昭和25年ごろの海水浴風景　人出でにぎわう真夏の海辺

白砂青松の美しい芦屋浜

芦屋市民のいこいの場でもあった芦屋浜

水着写真コンクール　昭和32年８月に第１回撮影会が開催された。

モデルを囲んで真剣な表情

水辺で微笑む水着美人

芦屋海水浴場　防潮堤に沿った美しい砂浜。遠浅で子どもたちにも人気の海水浴場だった（昭和31年）。

芦屋浜の貸ボート屋　昭和31年ごろ

海水浴場でのアトラクション

昭和36年ごろの芦屋海水浴場　このころになると、潮流の関係で砂浜がへり、また芦屋浜の埋立ても決まり、昔日のおもかげもなくなった。

芦屋浜水練学校校長　故高石勝男氏

水練学校風景　昭和33年ごろ

水練学校練習風景　昭和37年ごろ

水練学校練習風景　芦屋海水浴場が閉鎖されたあと、市民プールに移った水練学校（昭和44年）。

県立芦屋高校野球部の全国制覇

戦禍から立ち直った芦屋市に国際文化住宅都市建設法が公布され、いよいよ本格的なまちづくりが始まりかけた昭和27年、県立芦屋高校が全国高校野球大会優勝という大偉業を成しとげました。

昭和24年春の全国選抜大会で惜しくも準優勝となった県立芦屋高校は26年夏、27年春と甲子園に駒をすすめ、特に27年の春には優勝候補と騒がれながらも平安高校に2回戦で敗れ、涙をのみました。

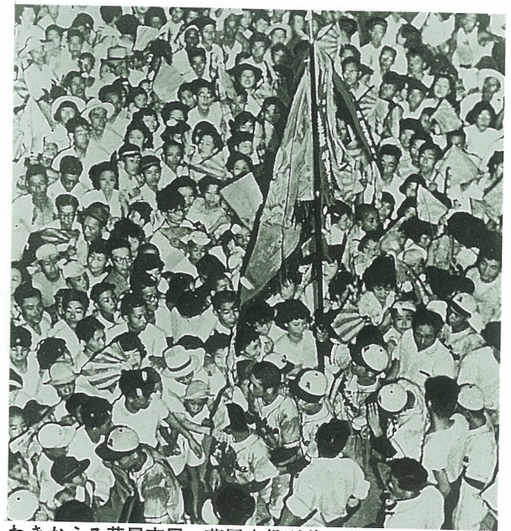
いよいよ27年夏の全国高校野球選手権大会、県立芦屋高校は芦屋市民の熱烈な期待を背に勝ちすすみ、8月20日決勝戦を迎えました。この日、市内では臨時休業の市場や商店街もでて、灘の酒樽・打出の〝大槌〟まで持ち出して市民総出の応援。試合はそれまで大阪府大会から10試合連続完封勝利の大会屈指の好投手、八尾高校の木村投手を打ち崩して宿願の優勝旗を手にしました。

甲子園から芦屋までの阪神国道は「祝優勝」の旗を手にした人びとが切れ目なしに並び、凱旋した県立芦屋高校ナインは市役所前で数千の群衆に取り囲まれました。

優勝投手植村義信さんは、「芦高15年史」に当時のことを「酷暑の7日間、連投連投に心身ともに疲れ果てた身には感受性がなくなって」「何か他人事のように思えて現実感がわかなかった」と書いています。

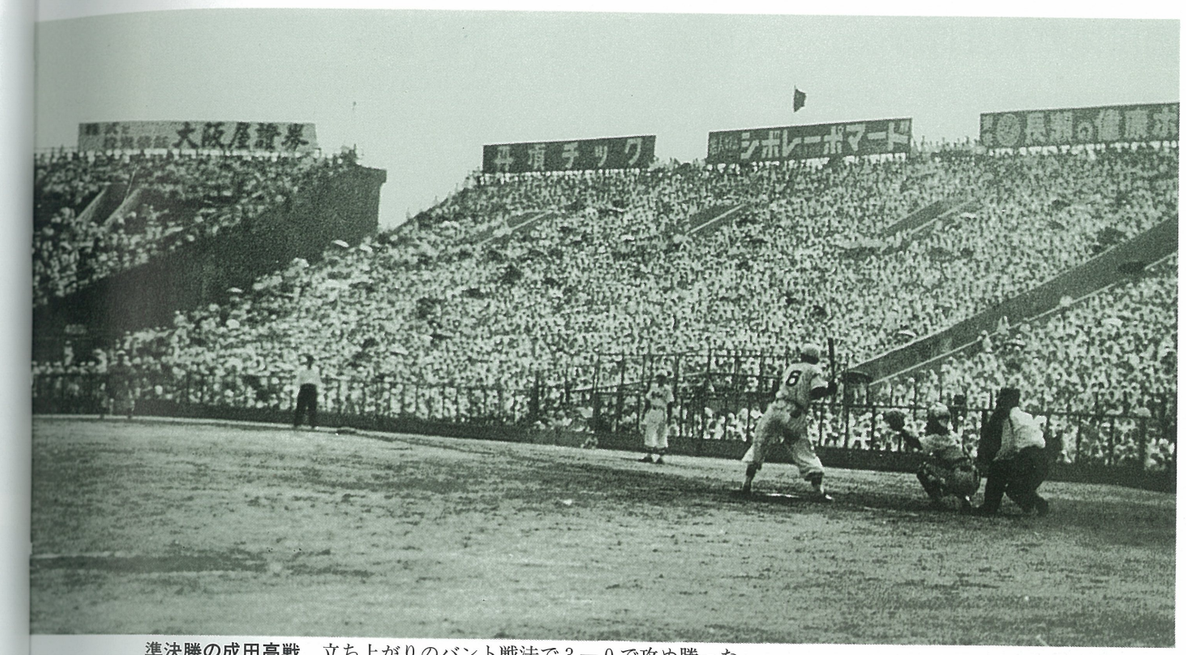
【第34回全国高校野球選手権大会決勝】

芦屋高	100	000	300	4
八尾高	100	000	000	1



わきかえる芦屋市民　芦屋市役所前で大歓迎を受ける芦屋高校チーム

優勝旗と楯をもっての記念撮影



準決勝の成田高戦　立ち上がりのバント戦法で3－0で攻め勝った。

試合後の場内優勝行進

表彰式

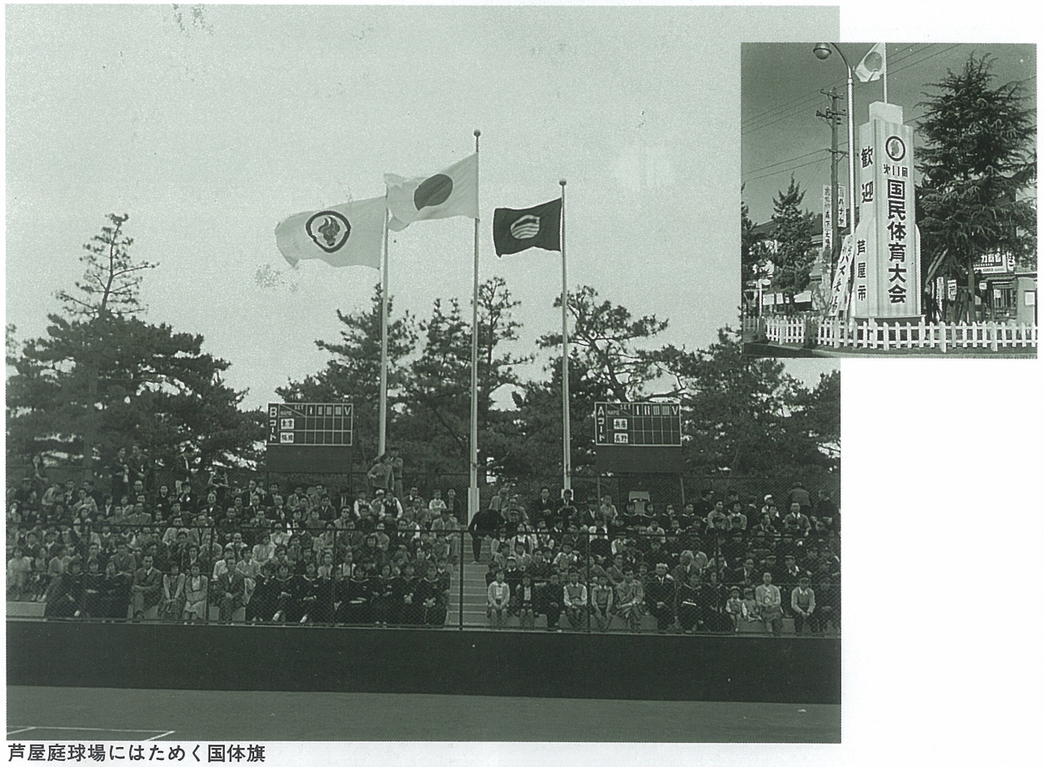
翌年の優勝旗返還　県立芦屋高は翌28年も出場し2回戦で延長の末、御所実業に敗れた。

国民体育大会ほか

昭和31年に行われた兵庫県での第11回国民体育大会の庭球競技は、松浜町「芦屋庭球場」で、ピストル競技は警察学校で開催されました。

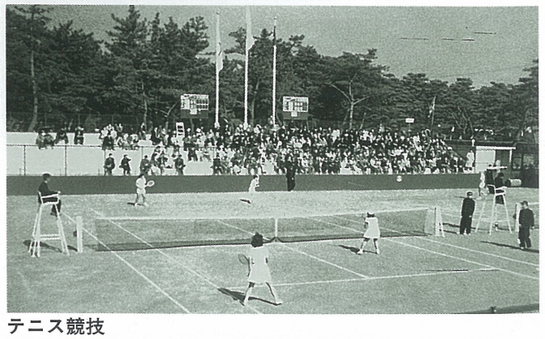
テニスではこの国体競技誘致に向けて働きかけを行った芦屋市体育協会初代会長松岡潤吉氏のお孫さんの松岡功氏（当時甲南大学生、後にデビスカップ選手）が開会式の選手宣誓をし、見事優勝しています。

庭球競技をご観戦の天皇、皇后両陛下　（当時）

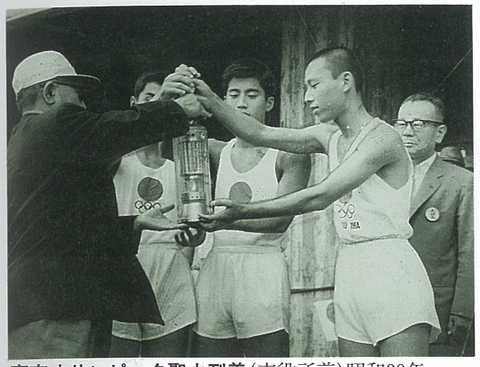


芦屋庭球場にはためく国体旗

ピストル競技　警察学校

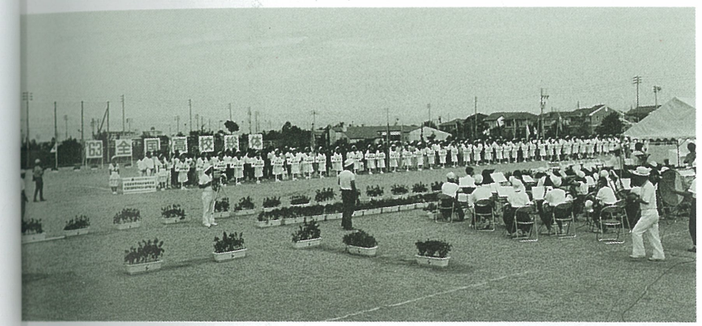


テニス競技



東京オリンピック聖火到着（市役所前）昭和39年

東京オリンピック聖火出発（市役所前）昭和39年



高校総体ヨット競技　昭和63年８月、県立海洋体育館を中心に芦屋沖３キロメートルの海上で行われた。

レース中の各校ヨット　男子スナイプ級に出場した県立芦屋高校は、総合11位と大健闘した。

芦屋国際市民マラソン　昭和63年春のマラソンには、世界的ランナーのグレーテ・ワイツ選手を招き5000人が参加して日ごろの成果を競った。

健康づくり

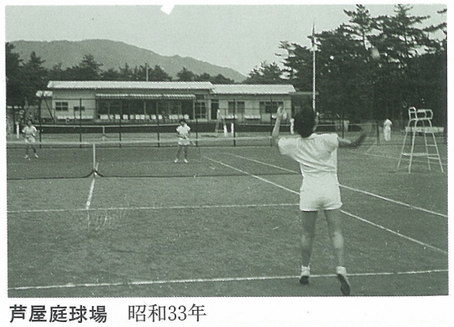
市民が健康で幸せに暮らせるまちに―これはだれもが願っていることです。"自分の健康は自分で守る"。健康づくりは日常的なものとして、生活の場での健康・体力づくりが盛んになりました。

場所づくりとして、市立体育館、市民プール、海浜プールの建設、また学校グラウンドの開放など、楽しみながら健康づくりができるよう整備をすすめています。

若い力がみなぎる体育館内の風景

市立体育館　昭和47年７月開館

松林に囲まれた芦屋庭球場　昭和41年ごろ



芦屋庭球場　昭和33年

市民プール建設工事　昭和41年６月（朝日ヶ丘町）

人びとでにぎわう市民プール　昭和41年７月

海浜公園プールのウォーターシュート

海浜公園プール　昭和59年７月開設（浜風町）

芦屋のまつり

精道村時代から、芦屋の風土の中で育ってきた祭りは、春の祭り・秋の豊作を祈る祭り、社寺の例祭、村むらとの境界争いに勝利した祭りなど、人びとの幸せと喜びを表わしたコミュニティーの場でした。それらには、時の流れの中に消え去ったり、歌や踊りに芸能化され伝えられてきたものもあります。

業平祭り　昭和27年４月芦屋短歌会が発足し、５月第１回業平祭りが行われた(写真は昭和30年ごろ)。

業平祭り　昭和32年５月

業平祭り　昭和30年ごろ

第２回芦屋市文化祭　舞踊会　昭和26年に第１回が開かれ、33年からは〝あしやまつり〟の中で開催された(写真は昭和27年ごろ)。

芦屋神社の祭礼　だんじり　昭和35年ごろ

ほうれん巡幸　昭和44年10月

ほうれん巡幸　昭和44年10月

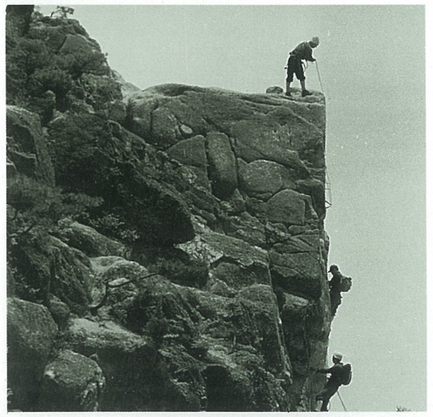
あしやまつり　昭和33年から開催。写真は34年第２回のときのもの。

あしやまつり　パレード

あしやまつり　子どもみこし　昭和36年

だんじり　昭和44年10月

芦屋岩まつり　昭和38年ごろ



芦屋山まつり　昭和40年
以前は「岩まつり」として、ロックガーデンを中心に開催され、市民に親しまれていた。

芦屋山まつり　昭和45年

市民のいこい

緑の山と瀬戸内海に面し、穏やかな気候に恵まれた芦屋では、ロッククライミングからマリンスポーツまで、手近なところでいろいろなスポーツが楽しめます。

豊かな緑につつまれたなだらかな六甲山系には、変化に富んだハイキングコースがそろっていて、体力に合わせて四季折々の自然を満喫することができます。

かつてはボートも浮かんでいた奥池

ハワイまつり　昭和39年から43年まで奥池で行われたハワイまつり。

奥池で憩う　昭和40年

芦屋ユースホステル　昭和43年

高座の滝　高さ約10メートルの夫婦滝で、滝のそばにアルピニスト藤木九三のレリーフがある。ここはロックガーデンの登山口でもあり、登山者に親しまれている(昭和40年)。

潮干狩でにぎわう芦屋川河口付近　昭和40年

芦屋川上流風景　昭和40年

暮らしぶり

夏の風物詩三八通りでの夜店。海水浴からの帰りに飲んだラムネの味。さすがの芦屋市民もビックリした万国博のときの象の行進。

当時の人びとの暮らしには、ほのぼのとした温かさがありました。そんな時代を懐かしんで、当時の商店街風景、市場のようす、人びとのようすがうかがえる写真を集めました。

山手商店街（現山手サンモール）　昭和55年

本通り商店街　昭和47年

三八通り商店街　昭和47年

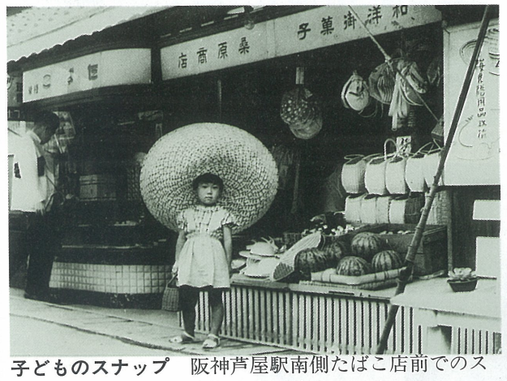
打出商店街　昭和47年

甲陽市場　昭和47年ごろ

浜センター　昭和47年ごろ

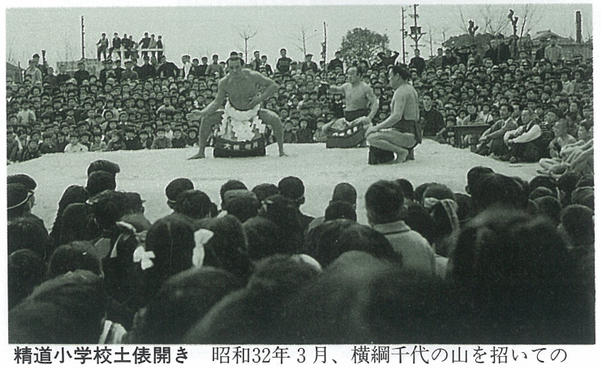
大原市場　昭和47年ごろ

市役所前風景　昭和25年９月ごろ、当時は市警察時代で、お巡りさんの腕章にも芦屋市のマークがみられる。



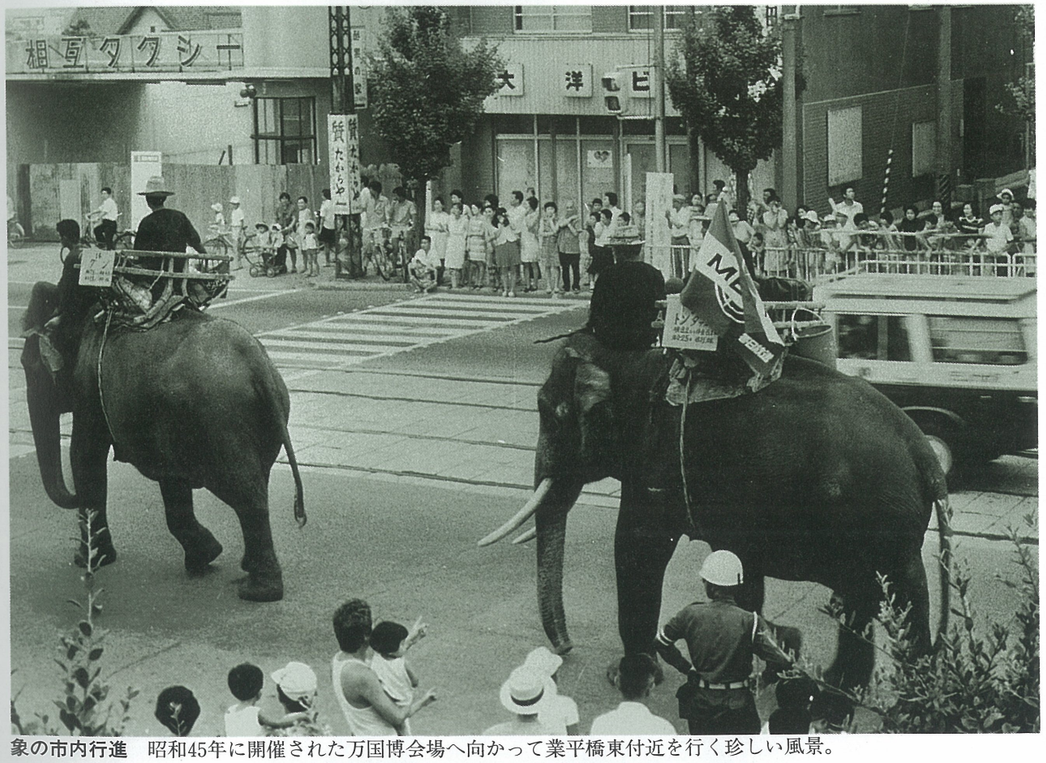
子どものスナップ　阪神芦屋駅南側たばこ店前でのスナップ。店頭には海水浴用品が並んでいる。

三八通りの夜店　昭和40年８月、「３」と「８」のつく日に開かれた。



精道小学校土俵開き　昭和32年３月、横綱千代の山を招いての土俵開き。

宮川沿いをいくボンネットバス　昭和30年ごろ



象の市内行進　昭和45年に開催された万国博会場へ向かって業平橋東付近を行く珍しい風景。

ビリヤード風景　大正６年に開業し、現在も営業を続けているビリヤード場でのスナップ。

災　害

戦災の傷あとも癒えぬ昭和25年９月、ジェーン台風が襲来しました。近畿・中国・四国・北陸を蹂躙(じゅうりん)し、死傷者2,000余人、被災者50万人という大きな被害をもたらしました。芦屋市でも、浜地区に多大の被害を残し、三笠宮様はじめ建設大臣らが見舞いに来芦されました。

また、昭和36年９月第２室戸台風が上陸し、近畿を中心に死者202人、被害家屋98万戸、最大瞬間風速84.5メートルを記録するなど、大暴れしました。

防潮堤の決壊　伊勢町付近、ジェーン台風による高潮によって東西150メートルにわたって決壊し、民家に大きな被害をもたらした。

ジェーン台風被災のお見舞いに来芦の三笠宮様

ジェーン台風で被害をうけた伊勢町付近のようす

ジェーン台風後の救援活動

第２室戸台風で決壊した堀切川　昭和36年９月

第２室戸台風　西蔵町海技大学校北側付近。中央の民家は撮影直後強風によって倒壊した。

月若橋付近　昭和42年７月の集中豪雨のようす。上流からの流木がひっかかった月若橋の橋げた。

濁流に洗われる上宮川町付近　昭和42年７月集中豪雨